

琉球民謡/ モーリス・新屋恵子/20周年記念後援

ロサンゼルス近郊ガーデナ市で琉球民謡の指導、普及、継承に努めているモーリス新屋恵子さん(与那城出身)が芸歴二十週年記念公演を10月6日、トーレンス市のジェームスアームストロング劇場で催した。沖縄から八重山民謡の巨匠、山里勇吉師、恵子さんの恩師、又吉政秀師(琉球民謡協会副会長)、少年コメディヤン 上原大知君、他30名が参加。

当地から琉球民謡北米支部、真境名本流真境名愛子琉舞道場の賛助出演を得、「島うた我が心」と題して、舞踊、カラオケ、かりゆしぬ御願、寸劇とバライヤテイーに富んだプログラムが、ラジオ沖縄のDJ 佐久田邦彦氏の巧みな司会と共に進行した。

恵子さんの長男バービー君(共に真境名愛子道場の弟子)は「巖の松」の舞を母親のお祝いとして披露し、大知君の「スーヤヌパーパー」、山里勇吉師による「トバラーマ」独唱、モーリス・恵子さんと山里勇吉師によるコンビ唄「十九の春」、恵子さん(唄)と真境名愛子師さん振り付け)による「行ちやいぶしゃや語いぶしゃや」等時間超過による熱演に満場の観客は見入った。

写真は左からハーバート・モーリス、恵子さん、二人おいてハカマ姿のバービー君。

当銘貞夫 (琉球新報北米通信員)